

光市記者発表資料

令和7年12月18日

件名	2025年光市10大ニュースの選定について
内容	<p>標記の件につきまして、市政運営の観点から、重要性や市民生活への密着性などを踏まえて選定しました。</p> <p>記</p> <p>2025年光市10大ニュース</p> <ul style="list-style-type: none">●新車両・新デザインで市営バスがリニューアル●光駅拠点整備へ新たなスタート●病後児保育施設「にじいろ」が開設●大和小学校が開校●新たな三島コミュニティセンターが竣工●里の厨レジ通過者が300万人を突破●光市出身選手が世界大会で活躍●戦後80年記念行事を実施●オール光で花火大会が開催●カンロと光市の連携事業を発表 <p>※各ニュースの詳細については、別紙の説明資料を参照してください。</p>
問合せ	担当課・係 企画調整課まちひとネットワーク係 担当者 中川 TEL 0833-72-1409

●新車両・新デザインで市営バスがリニューアル

市営バスの25人乗りの車両を更新し、3月27日から運行を開始しました。

外観には市章や伊藤公記念公園のイチョウをあしらうことで、親しみが持てるデザインとし、14人乗りの車両とともに主に大和地域の生活交通を支えています。

●光駅拠点整備へ新たなスタート

新たな南北自由通路と南口・北口の両駅前広場の整備などに取り組む光駅拠点整備基本計画の変更が3月議会で議決され、新たなスタートを切りました。

変更後の計画では、既存施設の有効活用などにより、財政負担の縮減を図っており、引き続き変更後の計画に沿って基本設計の修正を行うなど、光駅のバリアフリー化や、まちの玄関口にふさわしい都市空間づくりを進めています。

●病後児保育施設「にじいろ」が開設

おっぱい都市宣言のまちとして、保護者の子育てと就労の両立を支援するため、病後児保育施設「にじいろ」が4月に開設されました。

病気の回復期にあり、家庭での保育ができない場合にこどもを預かるサービスで、市内在住者は無償で利用することができます。

●大和小学校が開校

大和地域の4小学校（塩田、東荷、岩田、三輪）の再編により大和小学校が開校し、4月7日に開校式典を挙行しました。

式典の後には、児童や地域の皆さんのが校歌「光る明日へ」を作詞・作曲したシンガーソングライターの川嶋あいさんとともに校歌を歌唱し、新たな学校の門出をお祝いしました。

●新たな三島コミュニティセンターが竣工

老朽化や平成30年豪雨の被害を受けて整備を進めてきた新たな三島コミュニティセンターが4月に竣工しました。

地盤の嵩上げやフロアレベルを上げるなどの浸水対策により、災害時には避難所として、安心して利用いただける環境を整えました。

●里の厨レジ通過者が300万人を突破

平成23年に開設した農業振興拠点施設里の厨のレジ通過者が300万人を突破し、6月21日に記念セレモニーを開催しました。

これからも地産地消の拠点として、光市産の農産物の販売や農業振興などに取り組んでいきます。

●光市出身選手が世界大会で活躍

6月にハンガリー行われた世界柔道選手権大会、11月にクロアチアで行われたグラントプリ大会と12月に東京で行われたグランドスラム2025で田中志歩選手が優勝しました。

また、7月にドイツで開催されたFISUワールドユニバーシティゲームズで中本尚志選手がフェンシング男子エペ団体で金メダル、中村林伽選手が新体操団体総合で銅メダルを獲得しました。

●戦後 80 年記念行事を実施

戦後 80 年の節目を迎えたことを機に、光海軍工廠を中心に戦争関連の資料を展示した企画展や戦争体験者による講演会などさまざまな行事を実施しました。

戦争体験者が少なくなる中、これらの機会を通じて平和への思いを引き継いでいきます。

●オール光で花火大会が開催

7月26日に市民参画型の花火大会「#（ハッシュタグ）虹はなび」が虹ヶ浜で初めて開催され、夏の夜空を3,000発の花火が彩りました。

企画や運営、資金集めやPR、さらには後片付けまで全ての場面において、多くの市民が参画し、まさに「オール光」で開催されました。

●カンロと光市の連携事業を発表

市内で製造されているカンロ飴が70周年を迎えたことを機に、地域の活性化や観光振興のため連携して取り組むこととしました。

市内飲食店でカンロ飴を使ったメニューを提供する「リアルカンロ飴食堂のまち」の展開や、ふるさと納税への出品などに向けて、準備を進めています。